

神戸のこと 手当り次第

淀川長治
え・中西勝

「そんなアホなこといわんといとん。わて、あのとき、ちやあーんと聞きましたで、あんまり、ひとバカにしなはんな」

電話口で目を泣きはらしてお染めはんが旦那に、わめきたてていのを聞いた。うまいこと言われ、そのあとあつさり捨てられたんやなア……子供なりに私はそれがわかつて芸者てアホやなアとつくづく思ったのが、やがて中学の一年生のころになると、旦那にだまされて、生れた子供を、まあこれでもええやないかと、ミカン箱にその赤ん坊の死体、生れてすぐ死んだその小さな肉のかたまりを、寝かして白い布を上からかけるとき、その芸者の目からボタボタと涙があふれるのを見て、こんどは芸者て可愛想やなア、そう思うようになつて、さんざいなんて一生すまい、そう決心したものだつた。そんな芸者町の、置屋（おきや）に生れ育ちながら、このあいだ、ある呉服屋のパンフレットに、検番と書くべきところを見番と書いて、それもそのパンフレットが送られてくるまで気がつかなか



つたとは、自分もよつほど今はやりのあて字病に感染したということと併せて、ああ、あの西柳原時代ももう私の記憶から遠くなつたものと、ふんわりとさびしくもなつたものである。

×

西柳原から会下山に移り、その会下山から熊内四丁目に移るあいだの二ヵ月ばかりを、会下山館という今でいえば団地住宅のはしりのようアパートに移り住んだことがある。

会下山公園の入口の登りかかった坂道のかたわらにあって、ここからは新開地の湊川公園にはひと走りで行けるので私にはとても便利なところであった。

ここには中庭の植えこみの向うに別棟^{べっぷとう}の当時としてはなかなか洒落れた食堂があつて、いつも四、五人の客がたむろして無駄ばなしに花を咲かせていた。この洋食がまた実においしい。私は昼も夜もよくここに馳けこんだのであるが、あるとき「あのひと、ちりがんやわ」と若い男がそんなことを相手の二人の男に話している。

「そやけど、かたっぽのほうは、えらいちんちりがん」そこでこの三人が腹を抱えて笑いころげたのであった。この三人はひと目であれだとすることもわかる。体が大きくて腕も太い、まるで兵隊のようなのが金歯を光らせてニヤリと笑つて和服の片袖をまくつて二の腕をによつきり丸だしにしながら女形のような手つきで手先きを振つた。他の二人は小男で、そのうちの一人がリングをナイフでもぎながら、その手を止めて片ほうの手を「いやーねえ」というかこうで口にもつてゆく。聞くともなく聞いているうちに「ちりがん」が美男子で、「ちんちりがん」がぶ男だということが解つてきて、うまいこと言やはると私はひとりで感心したものだった。

×

熊内に移つてからは家の前がピーコックさんというイギリス人、すこし行くとハリールというドイツ人。そしてそのハリールといふ家には私とおないどしくらいの息子がいて、いつのまにかそのハリール君と仲良しになつて、アメリカの映画雑誌を五、六冊かかえて



は持つて行つて、その解らぬところを赤くしるしをつけて教えるも
らつたものだつた。この家に行くと家じゅうが犬の匂いとバターの
匂いがして、これが西洋人の匂いといふものなのだろうかと妙なと
ころで感心したりした。もつともこのハリールの家は犬と猫と人間
がおんなんじくらいの居住権を持つてゐるような家で、椅子の上、テ
ーブルの上、いたるところに大きな犬や猫が、がんと頑張つて押せ
ども突けども立ちあがるけはいがない。

ある日、私はハリール君の胸に妙なしるしのついたバッヂを見た
それは地蔵さんのマークそつくりで、それがヒットラー青年クラブ
のバッヂと知つて「あんた、ヒットラーを好きなんですか」この人
と話をするときは日本語で話すことを許さない、私がすこしでも
英語会話が上手になるようにと、いつも会話は英語にきめ、日本語
を口にするといくらいくらの罰金を支払うことになつていてるのであ
る。そこでそう英語で聞くと、ハリール君、たしかあのころ二十二
歳くらいだったと思う、その彼が「ハイ、ヒットラーはとても偉い
人なんですよ、私も私の姉さんも、みんなヒットラーの青年クラブ
にはいっているのです」そう英語で答えるときの彼の顔には純粹な
美しさがあふれ、いかにもそれを誇りとしている様子があつた。

そのハリール君に私はアメリカの映画雑誌を見せながら、ここ
の意味はこうなんでしょうか、ここは、こうなんでしょうかと、たど
たどしい英語できへつわに、モーリス・シュヴァリエの「今晚は愛
して頂戴な」Love Me Tonight やハロルド・ロイドの「ロイド
の活動狂」Movie Crazy やジョン・フォード監督のロナルド・コ
ールマン主演の「人類の戦士」Arrowsmith あたりになると、ハ
リール君はすっかりアメリカ映画ファンの生地をまるだしにして自
分から日本語になつてしまつて、得意氣に私に話して聞かすのであ
つた。ジョン・フォードの新しい映画をうれしげに語り教える彼の
胸にヒットラーのマークのバッヂが輝いていたとて、そのころ、私
はなんとも不思議には思つてもみなかつたのであつた。

連載隨想第四回

ベニスの絵

阪本 勝

え・小松 益喜

海外旅行がずいぶん盛んになつたこのごろでも、女性の身で外国に旅行するものはまだきわめて少ない。外交官の夫人になるとか、海外の商社に勤めている男性を夫にもつとか、ごく限られた境遇にいるものでなければ、女性が外国にゆける機会はなかなかない。

そこでわたしは永年考へてきた。じぶんが生きているあいだに、ひとりむすめの小弓を外国について行つてやりたい。それを今生の思い出として死の近づいてきたころに、倫しかつたわが子との

外遊の記憶を心のなかで繰りかえして思ひうかべ生と死の境の感傷としたい……と。
さいわい一昨年の夏、イスのM・R・Aの本部から正式の招請をうけた。たまたま私自身も、いわゆるニュータウンの研究のためストックホルム、ロンドン、ローマなど、ニュータウンの発達している各都市を視察したいと願つていたので、この機会に、小弓をつれて外遊する決心をし、七月初め北極まわりで日本を出発した。もちろんかの女の夏休みを利用したのである。

父とむすめは、四十五日間、十三ヶ国を歴遊した。あこがれのハイデルベルクへも行つたし、パリの夜の灯も見たし、ナイル河畔にも立つた。しかしいちばん感傷にふけつたのは、ベニスの数日であつた。

水の都といわれるこの都会で、バスと呼ばれるのは小型の船である。タクシーというのは、いわゆるゴンドラだ。ゴンドラは水上いたるところを漕ぎまわっている。まさに都会のタクシーそのままである。

ある日、旅館のまえにいたゴンドラを二時間契約して、もつともベニスらしい裏水路を遊覧した。つままり絵などによく描かれているあの狭い暗い水路である。紺の横縞のシャツを着た、背の高い、人のよさそうな老水夫は私の希望どおり、伝説的な裏水路深く、のんびりと漕ぎまわってくれた。

小弓は舷側にもたれて、初めて見る異国の不思議な風物を好奇の目を輝やかせて飽かず眺めていた。十七才の少女の胸にどんな感懷が往来したのである。父はその姿を名状できないとしさ

と可愛さの思いで眺めていた。こういう感傷を“かな愛し”と詩歌では表現するが、まずもつとも適確な言葉だと思う。父はかかる感傷の世界をさまざまにづけていた。これがこの世で父と子がベニスで遊ぶ最初で最後の機会であろう。いつかは



この子をのこして、父はある世に旅立たねばならぬ、そしてこの子も老いてゆかねばならない、などと考えて、ひそかに指の先でまなじりの涙をぬぐった。それは喜びや倫しみとはほど遠いせつない哀傷の思いであった。

日本に帰ってきて、ベニスでとったカラーフィルムを何べんかうつしてみた。父が子の横姿や後姿を愛しげに見つめているさまがそのままによくとれていた。小弓はうれしそうに、手をたたいてじぶんの写っているフィルムを飽かず見つめた。

父の胸には中老の涙、子の心には青春の歓喜——四十四才も齡のちがう親子の心の距離というものである。だがそれでいいのだ。それがしじせんなのだ。

歐州旅行からほぼ一年を経た去年の八月、木庭喜久男という画家が知事室に現われた。初対面の人だし、誰の紹介状も持っていない。姫路市に在住するものだが、アトリエを建てたいので絵を買っていただきたいというのである。とつぜんの話なのでちよつと面くらつたが、ともかく絵を拝見したところ、何とそれがベニスの絵であった。しかもわたしたち親子がゴンドラで通つてはつきり記憶に刻みこまれている狭い水路の写生画であつたゴンドラがゆく水路そのものは暗い日陰だが、T字型のつきあたりには明るい午後の陽がさしている。それも記憶にはつきり残つてゐる。

とつさに「ほしいな！」とわたしは思った。一九六〇年製作の十号の作品で、やや高価であったが、わたしはその場で譲り受けた。絵はずいぶんたくさん持つてゐるし、いまさら初対面の画家から買う義理はないのだが、ほしいという気持が瞬

間に湧いたのは、溺愛盲愛のせつなさに父に心を濡らしつづけるひとりむすめとゴンドラで通つたなつかしい水路——おそらくふたたびは通れないあの水路の風景画を生涯わが身辺においておきたいと思ったからだ。

それからもうひとつ、その瞬間に考えたことがある。オレが人生の終末に近づいて、この世とのわかれの床についたとき、この絵を病室の壁にかけて、終日眺めくらししたいのだ。

そしてかつて小弓と遊んだ水都の思い出を、繰りかえし繰りかえし胸中で味わいしめ、もうろうと消えてゆくあわれに美しい回想にふけりながら、生から死へ架せられた橋を渡ろう——わたしはそう考えた。そんな考えが心をゆさぶったのは、ほんの三十秒か一分ぐらいのものだったろう。そんなことで無性にその絵がほしかったのだ。

わたしは今までずいぶん絵を買っている。しかしほとんどの場合、買おうか、買うまいかと、思い迷つたものだ。ベニスの絵のように即決購入した例はいまだかつてない。わたしはこの絵に神秘的なもの、運命的なものを感じる。

今その絵はわが家のサロンの壁にかかけてある。多くの来客はその絵をちらと見るが、誰ひとりとしてその作品の由来を知るものはない。誰の作品かとく人もない。またわたし自身は作者の木庭氏とその後一度も会っていない。絵は悄然とサロンの壁にかかり、わたしだけがその作品にひそむ秘密を知つているのだ。妻も知らない。小弓も知らない。わたしだけの秘密なのだ。

わたしは過去に三たび外遊しているが、奇妙なことに、永年のあこがれの的であつたハイデルベ

ルクとベニスを訪れたのは一昨年が初めてである。しかも尊い最初のたのしみを十七才のひとりむすめとともにしたのである。故都、学都、ハイデルベルクの夕まぐれ、フリードリッヒ橋上にたたずんで、静かに流れる美しいネッカ川を眺め、丘上の古城や大学を見わたしたとき、わたしはむが身の幸福の頂点にあると思った。わたしはむすめの肩を抱きながら、故都のたそがれのけはいを心ゆくばかり味わつた。たゞなる野鳥の声がいたるところからきこえた。

「お父ちゃん、なぜそんなにハイデルベルクが好きなの」
と、むすめがわたしにいつたくらい、わたしは恍惚のきわみにさまよつていた。

それから何日かのち、水都でもすんだ夢幾夜、たのしく、せつない父と子の明け暮れであつた。

こんなしあわせがあるだろうか。わたしはしみじみ思う。わたしにどんな不幸が過去にあつたにせよ、またこんごどんな不幸がやってくるにせよ、生涯のうちにうら若いわがむすめとともに、雲烟万里のとつくにの旅をしたという一つのことであつたなら、百一の幸福がわたしにある。千の不幸があつたなら、百一の幸福がわたしにある。千の不幸があつたなら、千一のしあわせがわたしにある。天に謝し、地に謝し、人に謝すべきだ。ベニスの絵よ。わたしがいのちの果てに立つとき、わが壁面を飾つておくれ、妻よ、むすこよ、その妻よ、小弓よ。秋の夜ながにそこはかとなくつづるこのふみを、かつ笑い、かつおかしがり、かつ哀れとも読み捨ててくれれ。父といいうものは永遠にさびしいものだが、また人に知られぬ心のしあわせもあるのだよ。



特選
ハンドバック
専門の店

シラサ
元町2 ③ 0813

A black and white illustration of a man in a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is sitting with his hands clasped. Above him is a diamond-shaped logo containing the word "Pelo". Below the logo is the text "MADE IN WEST GERMANY".

Pelo
MADE IN
WEST GERMANY

ネクタイの
元町バザー

神戸・元町



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前(3)3900

婦人服飾・大丸前(3)1695

センター街(3)6114

姫路やまとやしき(2)1221

* 優雅な気品を
あなたにそえる
ミンクのストール



ペニ一毛皮店

三宮・国際会館1階

TEL ②3327

神戸つ子 ジョン・ブル

陳 舜 臣



神戸弁でユーモラスに話されるムーア氏

セオドル・ジーイ・デヘーズムーアさんは、ことし六十才になる。神戸で生まれ、ほとんど神戸ですごした人だが、典型的なイギリス紳士である。

この典型的英國紳士なるものを、失礼だがムーア氏を例にとって、説明してみよう。

他人の思惑などには一切構わず、自分がこうと思ったら、はつきりイエスはイエス、ノーはノーと言い切って節をまげない。

もちろん、流行を追わない。ムーアさんは服をつくつても、濃紺だけである。暑いときはシングル、寒くなるとダブルにかかるぐらいで、色はかわらない。

「この色やったら、五十年まえの古セビロでもわからんさかいな」と言つてのける。

散髪は、亡くなつたお父さんのヒイキの散髪屋に、いつもつて来てもらつてゐる。むろん、むこうも代はかわつてゐるが。

かみついたらさいご、死んでもはなさないブルドッグ的根性である。だが、頑固は頑迷ではなく、保守は退要ではない。

便宜上、ムーアさんと呼ぶが、正式にはデヘーブル・ムーアと言わねばならない。彫刻家のムーア、随筆家のムーア、バイロンの友人であった詩人のムーア、私の知つてゐるムーアはみんなアイルランド出身だ。アイルランド独特の姓かどうか知らないが、神戸のムーア氏もアイルランド出身である。しかし、たんなるムーアでなくデヘーブル・ムーアである所に注意されたい。泰西有識故実に通じている人なら、この名をきいただけで、貴族だということがわかるだろう。

ムーア氏のお父さんは、第一次大戦後に神戸で亡くなつてゐるが、この人こそいちど会つてみたい魅力のある人物だつたらしい。

三十二才、海軍大佐として英國東洋艦隊在職中、日本へ巡航してこの土地にすっかり惚れこんだ。とくに神戸が気に入った。

「おれは、ここに永住する」

ジョン・ブルである。言い出したら、あとへはひかない。軍職をポンと投げうつて、神戸に住みついた。明治三十年代のことである。

神戸に住んで商売でもやろうとしたのかつて？ それは下司のカンングリである。そんなことを考えるのは、ふるき良き時代のイギリス貴族を知らない人だ。

ムーア氏の父上は、三十五トンのヨットを仕立て、神戸を中心として、海のうえの逍遙に日をすごした。ライセンスを受けた英國海軍旗をマストにかけ、瀬戸内海に遊んだり、遠く上海へ出かけたりしたものだ。ただし、信心ぶかい人なので、日曜日にはかならず教会へ行く。だから、どんなに遠くへ出かけても、土曜日までには、ちゃんと神戸北野町の自宅へ戻ってきた。

教会まいりには、子供はぜんぶ、海軍軍人の父上好みのセーラ服を着せられた。

「それが、恥ずかしくってねえ」と、ムーアさんは當時を回想して、おっしゃる。

当時のムーア坊やは、稀代のやんちゃ坊主だった。ピールを盗んでのんだのが六才のときである。いたずらのかぎりをつくして、悪名、北野界隈にかくれもなかつた。北野町三丁目の交番で、巡査が製帽とサーベルを盗まれたことがある。

「さては、またムーアの小作の仕業だな！」

巡査はおつとり刀で——いや、サーベルは盗まれていたから丸腰だが——ムーア邸にかけつけた。幸いムーア坊やは病氣でウンウンうなつていて、アリバイがあつた。しかしムーア坊やでないとすると、こいつは本物の泥棒にやられたのだと、そのお巡りさんは、あらためて青くなつたといふ。

このエピソードは、なにかあれば「ムーア坊や」と、札つきだつたことを物語つてゐる。

じつは、この腕白こそ、ジョン・ブルの下地なのだ。英國紳士の製造所であるパブリック・スクールにおける生徒のいたずらぶりのすさまじさは、小説でもときどきお目にかかる。制裁、ケンカ、スポーツ、それらを通じて、ジョン・ブルの負けじ魂が養成されるのだ。ムーア氏は、それらを神戸で身につけた。これは、海軍軍人であつた父上の配慮があつたのではないかと思う。

父上が居を神戸に定めたあと、日露戦争がはじまつた。日英同盟時代だから、日本海軍と友好的だつたのはいうまでもない。ムーア家と日本海軍のつき合いは広く、東郷元帥とも親交があつた。これが後年ムーア氏を助けることになるが、それはあとの話である。

宮内省からも、在留英國貴族として、大正末期までは毎年アイサツがあつたそうだ。ムーア家先祖には、ナポレオン軍と戦つた著名なムーア将軍もいる。フランス軍をスペインに牽制して、ウエリントン将軍をしてヴァーテルローで勝利を得た陰の力となつた人物であるムーア氏の父上は、貴族であることをけつして鼻にか



好物の竹葉亭のうなぎの白焼に舌つづみを打つムーア氏と夫人



腕白時代から次々と想い出の話はつきない、左より陳氏・ムーア氏・夫人

けなかつた。むしろ、それをかくした。なにしろ惜しげもなく、将来の提督につながる軍職をなげうつほどだから、型破りというほかに、表に出たがらない性格もあつたらしい。

ムーア氏は、自分の家の家柄を父上からきいたのではない。後年帰国したとき、家の顧問弁護士にきいて、はじめてくわしく知ったものだ。お父さんの血をムーア氏もうけついでいる。氏も血統を誇らず、庶民生活を愛し

たし、いまもなお愛している。
「平野にソバのうまい店があった。四宮にはシッポクと茶碗むしのうまい店があつて、わざわざそこへ行つたもんや」

昔のうまいもんの店にも通曉していく、そんな所で、日本の庶民と肩をならべ、湯気を吹きながら、ソバやウドンをすすつた。
乗馬、オートバイ、ドライブ、登山の愛好者で、とく

に神戸の裏山にはくわしい。ちなみに、神戸の裏山には外人の名づけた地名が多い。ここに数例をあげると、

トウエンティ・クロス（二十渡し）

ケットル・ヒル

（鍋蓋山）

神戸クラブの裏にある首吊り山——ハングマンス・ヒ

ルは、ムーア氏の父上の命名である。むかし、首吊りの多かった所らしい。

「再度山みたいなちっちゃな山に、ドライヴ・ウェイつけるなんで、けつたいな話や。やっぱり旧登山道のほうがええ。むかしは、再度山大龍寺境内の善助茶屋まであの道を一年三百三十回ぐらい登ったもんや」

こんなふうに、少年時代と青年時代を神戸で過ごしたのち、ムーア氏は日本商品の対中国輸出に従事する。上海をはじめ、中国各地にも滞在した。

上海にいたとき、それも上海事変のころのこと、店のなかで、ちょうど受託したキャセイ・ホテルのボーイの制服を箱づめにしていたら、とつぜん、銃声とともに、日本の陸戦隊員が闖入してきた。

「便衣隊がここにいるだろ？」
と詰問する。中国人従業員はみな身許がはつきりしているので、ムーア氏はそんな者はいないと、流暢な日本語で答えた。

「こいつ、スペイだな」

日本語をしやべる外人は、頭からスピーディである。とうとう憲兵隊のような所へ連行された。だが、ここでムーア家の日本海軍との交誼が彼を助けることになった。派遣船隊司令長官野村大将をはじめ、江田島出身の将校たちが、ムーア氏の父上を知っていた。

で、危ういところを釈放された。

上海から神戸へ帰つて、ムーアさんは日本婦人と結婚した。以来、ずっと神戸に住んでいる。戦争のあいだ、神戸にいても外人にはいろんな面倒ことがあった。しかし、ムーア氏が海軍省の神戸出張所に頼むと、たいていのことは円満に解決されたそうだ。

「だから、太平洋戦争がおこつても、私は帰国しませんでしたよ」

ムーア氏は、神戸っ子である。

奥さんがなにかおしゃつても、

「関東人が何を言うか」と軽くいなす。

英國に帰つても、むしろ旅行者のような氣もちではあるまい。おなじ兄弟でも、十一才のとき帰国した姉さんは、いまはまったく日本語を忘れている。先年、ムーア氏が帰国したときそのお姉さんに会つたら、

「一つだけ日本の歌をおぼえていい」
といつてうたいだしたのは、『鳩はっぽ』でもなければ『おてつないで』でもない。『日本勝つた、ロシア負けた』の歌だった。日露戦争の直後は、そんなわらべ歌が一世を風靡したのであろう。

風土は人間の性格に影響するが、完全に変えることはできない。微妙な混合や、平行がそこにあらわれるものだ。

ムーア氏は骨の髓まで英國紳士である。が、同時に、われわれの周囲にざらに見かける『神戸っ子』でもある貴族であると同時に、庶民である。

イートン製ならぬ、神戸のジョン・ブルを、ムーアさんを見る思いがする。思われぬ長話になつて、「どっこいしょ！」と、ムーア氏は立ちあがつた。脚が痛そうである。やはり、日本ふうの畳に慣れないのかと思つたら、そうではなかつた。

「若いころ、姫路へ馬を乗りに行つて、ころげたんやそこが、まだ痛みよる」

苦が笑いをしながら、ムーア氏は夫人をかえりみて、じつにやさしい表情をみせた。

大切なことを言い忘れた。——ジョン・ブルは、女性を徹底的に大事にする。騎士道の伝統なのだ。

ムーア氏のみごとな白髪を見て、ほほえましくなつた。

第三の美容



EYEGLASSES CREATE THE THIRD BEAUTY

ハイファッショニのめがね

神戸眼鏡院

元町3・電③3112-3・⑨1443
③ 0551 (貿易部)

〈神戸クーポン歓迎〉

まごころこめた贈り物に

70年の伝統の味に新しい味覚をくわえてつくりあげたかずかすの銘菓…。すばらしい風味と気品のあるデザインはどなたにも喜んでいただけます。お気づかいのお歳暮ご贈答に鳳月堂のお菓子をお選びください。

神戸 鳳月堂

元町3丁目 TEL③ 695・696



神戸遊戯誌

3



日本婦人として最初の

ホール・イン・ワンをきめた西村夫人

一六甲ゴルフ・コースで一

ゴルフ

③

青木重雄

一九〇三年（明治三六年）ごろ、すでに六甲山上のコースで、西洋婦人がゴルフをはじめていたから、ことしでちょうど六十年目になるわけだ。日露戦争が終わった一九〇五年の九月九日に、同コースで神戸俱楽部の最初かつ日本最初の婦人競技が行なわれたが、もちろん西洋婦人ばかりで、マッケー夫人が一三四で優勝した。その後一九三〇年ごろまで毎年婦人競技が行なわれたが、日本の婦人が初めて同コースでクラブを握ったのは、一九〇七年の小倉末子さんが最初である。一九一九年（大正八年）に六甲でゴルフをした住友孝子夫人が、関西での日本婦人ゴルファーの第一号だった。同夫人は夫君とともに一九一七年に渡米して、同地でゴルフを習つて帰つてきたものだった。

だが、一九二三年ごろには、関西では関東に先んじてすでに数人の婦人ゴルファーが六甲や舞子でゴルフを始めており、神戸婦人ゴルフ俱楽部の一九二五年度の婦人ハンディキャップ・リストには、西村まさ（西村貫一氏夫人）九鬼忠子、同とみ子、山口美代（山口関西信託社

長夫人）野田喜見（野田敷島紡績社長夫人）の五人の名がのつてゐる。小倉さんや住友夫人の頃と違つて、この頃になると、日本の婦人ゴルファーの技術もうんと向上して公式試合が行なわれるようになつていて。なかでも、一九一二年から、お茶も長唄もやめて、ゴルフを習い出した西村夫人の進境はすばらしかつた。同夫人は貫一氏のすすめではじめは自宅の庭でまねごとをやり、つづいて青木や鳴尾のゴルフ場へ通つて腕を磨いたが、「同じやるなら、日本一の婦人ゴルファーになれ」と貫一氏からはげまされた甲斐あつて一九二五年夏に行なわれた神戸ゴルフ俱楽部のレディース・チャムビオンシップに八八の記録でみごとに優勝した。東京婦人ゴルフ俱楽部はこの翌年に結成されているから、西村夫人の優勝はいわば、日本婦人として最初の公式選手権の栄与に輝くものだった。しかも、同夫人は当時西洋婦人ゴルファーの中にはあってもハンディキャップはスクランチで、稀にみる天才女流ゴルファーであつた。このほか九鬼さんもハンディ七で、シングル・プレイヤーとして西村夫人

につづき、山口さんは一四、野田さん一六、九鬼とみさん一八で、ともに西洋婦人と比べても上位の腕前だつた。

当時の婦人ゴルファーは世間から「生意気だ」とののしられ、「有關夫人のひまつぶし」とぼろくそにいわれたものだが、それ以上に困らされたのは洋服だった。洋服の日本婦人がほとんどいいうえに、洋服を買いにいっても着かたがわからない。婦人洋服屋も神戸に数えるほどしかなく、トア・ロードのエスター・ニュートンとレインクラフオードと大丸の近所にもう一軒あつたレヤア商会ぐらいだった。「洋服を買うお世話ををして、芦屋の野田さんのお宅まで着つけにいて、はじめて青木のゴルフ場までご一緒したものです。やつと着つけをすましてさっそく赤ん坊にお乳を飲ませたことを今でもおぼえている。洋服でみんなに苦労するより、いつそのこと日本女性はモンペでゴルフをしたらどうだらうーと、よく思つたものです」とは、西村夫人の当時への述懐談である。もう一つ婦人ゴルファーが困らされたことは、六甲山上でブレイをする場合、水が乏しいことだつた。婦人のクラブ・ハウスこそ作られていたが、ブレイがすんからからだを洗おうとしても、木の風呂桶に水が十七八ほどしかたまつていなかつた。また、婦人のかぶつていた帽子が大き過ぎて、振つたクラブの先が帽子のへりに当たることが多かつたことも、ちよつとした悩みだつた。

さて、このようにして関西婦人ゴルフ俱楽部の会員はしだいにふえて、一九二七年ごろには上流婦人の会員が三十名近くにもふえていた。同時に、婦人同士の試合の数もどんどんふえていった。なかでも、西村夫人の実力はずば抜けていた。第一回六甲婦人選手権獲得後、次のような成績で、実に五連続優勝というすばらしい記録を樹立した——一九二六年(大正一五年)度、八一(四〇、四一)、一九二七年度、七八(三五、四三)、一九二八年度、八七(四三、四四)、一九二九年度(八四)——しか

も一九二六年の時六甲の一七番ホールで、ホール・イン・ワンをきめたのは、日本婦人として最初であつた。むろん、これには偶然性も大いに手伝つていて、西村夫人自身も、「ホールにはいついた球をキャディが見つけてくれたるまで、どこへ飛んだのだろうと他の方ばかり探しの実力によるよいショットによらねば、こんなすばらしい結果を生むことは出来なかつたにきまつてゐる。同俱楽部内だけでなく、東西婦人対抗試合でも、西洋人をはじえた国際試合でも、各会員の活躍はめざましかつた。まず、東西対抗戦は一九二六年夏東京駒沢ゴルフ場で行なわれ、関西側は惜敗したが、東西ナンバー・ワン同士の三井夫人と西村夫人の試合は白熱化したものだつた。翌年の第二回戦は茨木コースで行なわれて、六対六の引き分けに終わったが、このシングル・マッチにおいて、両夫人はまたもハッスルした戦いぶりを演じ、十番でオールスクエア、最後の十八番グリーンで三井夫人が惜しくもバットをミスして、一ダウンで敗れた。第三回戦は八対一の成績で関東側が大勝したが、この時のシングルでは、三井夫人が西村夫人に勝つて前年度の雪辱をとげてゐる。第四回は六対五をもつて関西側が初優勝をとげたが、今回はつごうで三井夫人が出場しなかつたため、両夫人の決戦をみることはできなかつた。一九二九年度国際試合のはしりは一九二六年の六甲コースにおける関西女流ゴルファーと外国婦人ゴルファーとの一戦だつたが、七対五で日本側が勝ち、関西レディース・ゴルファーの意氣さかんなところをみせたものだつた。戦後もいち早く関東にさきがけて昭和二十九年十月に第一回関西女子ゴルフ選手権が宝塚コースで参加者三四名のもとに行なわれ、宝塚ゴルフ俱楽部の阿座上秋子夫人が優勝した。昔とは比較にならぬほど自由な空氣のなかで行きわれる今日の婦人ゴルファーたちのびのびしたプレーを、多大の感動をもつて眺める人も決して少なくはないだろう。

東京よいとこ

伊達俊太郎



に行つちつち」なんて歌が流行している。ほんとにいに
かげんにしてくれといいたくなる。

全国津々浦々から東京見物にやつてくるおのぼりさん
の数が、年間でどのくらいになるのかはちよつと見当も
つかないが、団体客のコースは大体きまつっている。料金
によつては赤坂のナイトクラブなんかをちらりとのぞか
せるのもあるらしいが、たいていは皇居と明治神宮と靖
国神社をお参りしたあと国会議事堂で郷土出身のセンセ
イたちにごあいさつというコース。東京タワーを見上げ
るほかは、どこでも頭を下げつ放しらしい。やたらにバ
スで引回されたあぐくにやつてきた議事堂で「やつぱり
百円札の絵とおんなじやなあ」と感心したおばはんがい
たという話を聞いたおぼえがある。いずれにせよ、あま
り寿命のはしに役立つ観光コースだとは思えない。

いまはオリンピックを前にして、いたるところで、大
工事をしている。友人の話では、道をたずねたら「あそ
この地下鉄工事場を右に曲つて百メートルほどいくと水
道工事をしてゐる。そこを左に折れてガス会社の工事現場
の手前の道を右に進むと電話線工事をしてゐる。そこか
ら建設中の高速道路までのところがコウジマチ（麹町）
だよ」と教えてくれたといふ。そいつの創作にしてはで
きすぎだから、どうせ寄席あたりで聞いたおとし話にち
がいない。しかし、ことほど左様のあります。ただで
さえ騒々しい町がこの調子なのだから、まずこれからは
音楽家が育つようなどはあるまい。

◇

夏はイモの子洗うような湘南の海水浴場。冬は上越の
雪を求めて新宿駅一番線ホームに前夜から泊りこんで列

車に乗込む順番を争う——バカンスだつて樂ではないの
だ。第一、キャッチボールひとつできる遊び場がない。
祭になると、オート三輪が荷台におミコシをのづけて、
駐停車ならびに右左折禁止、一方通行の町内をよたよた
とかけ回る土地柄だ。ましな子どもが育つだろうかと、
他人事ならず気にかかる。にもかかわらず「息子の教育
のために、主人を残して東京に出て参りましたんでござ
りますのよ」などとぬかすキチガイばばあもまだいるの
である。

やっぱり海あり山ありの神戸はいい。もし「わたしも
夢のパラダイス」なんてしろものではなかつたらし
い。

だが、三十年過ぎたいまでも「可愛いあの娘は東京

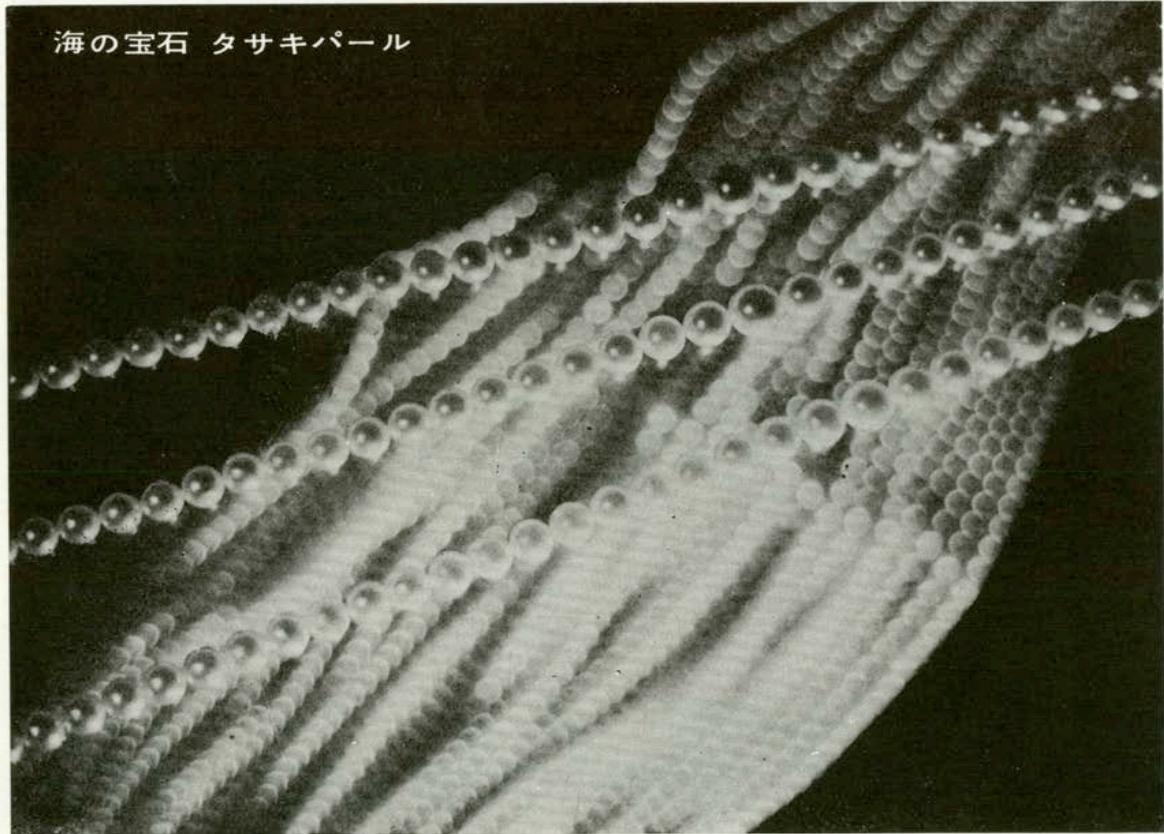
雪を求めて新宿駅一番線ホームに前夜から泊りこんで列
車に乗込む順番を争う——バカンスだつて樂ではないの
だ。第一、キャッチボールひとつできる遊び場がない。
祭になると、オート三輪が荷台におミコシをのづけて、
駐停車ならびに右左折禁止、一方通行の町内をよたよた
とかけ回る土地柄だ。ましな子どもが育つだろうかと、
他人事ならず気にかかる。にもかかわらず「息子の教育
のために、主人を残して東京に出て参りましたんでござ
りますのよ」などとぬかすキチガイばばあもまだいるの
である。

やっぱり海あり山ありの神戸はいい。もし「わたしも
夢のパラダイス」なんてしろものではなかつたらし
い。

だが、三十年過ぎたいまでも「可愛いあの娘は東京

(おわり)

海の宝石 タサキパール



銀座—神戸—長崎を結ぶ高級真珠専門店

田崎真珠店

35

神戸店 三宮駅前・秀品店
銀座店 東京・銀座西四丁目
ヒルトン店 東京ヒルトンホテル

みなと神戸にも冷たい秋風が吹き初めました。風はいたずらっぽく頬をなでて行きます。そして、風になびくスカーフはとても魅惑的で美しいものです。

今日はスカーフのおしゃれについていろいろとあなたにお話してみましょう。

スカーフには「防寒用の衿巻」と「おしゃれ」の二種類にわけることが出来ます。でも、多くの人は冬になればスカーフをしなくてはいけない、スカーフは冬のものだといった考え方をもつていらっしゃる人が多いようですが、スカーフで季節にとらわれないおしゃれを楽しん



Winter Scarf

おしゃれなスカーフ 福 富 芳 美

れるでしょう。

いろんなスカーフのなかから選ばると、洋服にマッチしたものを選ばると、そのちょっとした使いがあなたの装いの美しさを引き立てるでしょう。また、コート、スーツなど着ているものとの色のコントラストをよく考えてみることです。素晴らしい色や柄だといつてスカーフだけにとらわれすぎて、スカーフを選ぶことは間違いです。

あなたの顔にあつているかどうかをよく確認してからスカーフを選ぶことも一番、大切なことですから忘れないようにしましょう。

そうすれば、そこにあるからスカーフをするといった間違いは防げるはずです。そして、スカーフはその使いかた、かぶりかたを工夫なさることです。自由な気持でスカーフを生かした美しい装いを考えてみましょう。

おしゃれなスカーフのヒント

* スカーフを前に結び、ボウのようにしてみるのも若い人にふさわしいでしょう。

* 横に結び蝶々むすびにする可愛いあつかい方。

* 七色のジョーゼットを揃え、色ちがいの二枚をあわせてみたり、つないでみるといった楽しいコントラスト、これはあるタカラジエンヌのアイディアなのですが若さがあつて印象的でした。

* ウールのターラン・チエックを生かしてスカーフとスカートをそろえるのもいいでしょう。

* 若い人々にはアンゴラやリングヤーンで編んだスカーフなども、暖かくて、しゃれたスカーフです。

* スカーフに刺繡なさるのも可愛いでしょう。

パリジェンヌは原型のドレスにいろいろなスカーフのあつかい方を工夫して、装いにヴァラエティをもたらします。『スカーフで洋服を着る』と言つてもいくらいであります。神戸っ子のあなたもスカーフでこれから季節を樂しみましょう。

でいただきたいものです。

最近の若い人はスカーフのあつかい方が大へん上手になってきているようです。神戸のような都会では田舎とちがって、暖かさを目的とするスカーフだけでなく、防寒、プラス、おしゃれのアクセサリーになればいいと思います。

スカーフは外国に比べると日本ではうんと種類が多く柄も豊富に出回っています。スカーフの種類といえば、豪華なドレッシーな絹、サテン、薄くはりのあるシルク、デシン、実用的で暖かいジョーゼットなどがあげら

(神戸ドレスメーカー女学院長 大丸顧問デザイナー) 談

ヨーロッパからのプレゼント



婦人帽子

マキシン

神戸・トアロード 東京・銀座3-2
TEL③6711~3 TEL(535) 5041



美しさを創る…

スター・ニュートン

トア・ロード③1818

ARTHUR GRUMIAUX RECITAL



SE-2300

現金正価／49,800円
月賦定価／52,300円



PHILIPS

STEREO

ANDRÉ CAMILLERI

MUSIQUE DE VIOOLIN & GRAND CHOEUR ET SYMPHONIE

WITH JEAN-JOSÉPHÉ CHAMOISEAU, CLIF

BERNARD REBASSET, JEAN-MICHAËL HÉLÈNE, RÉMI

ET PROFI APODUN, RAY

CHARLES PHILIPPE CAILLARD AND STEPHANE CAILLAT

LOUIS FREMAUX, ENVILLE, JEAN-FRANÇOIS PAULANT, CHAMOI, DUCHES



RAY CHARLES VOLUME TWO

MODERN SOUNDS
in COUNTRY
and WESTERN MUSIC

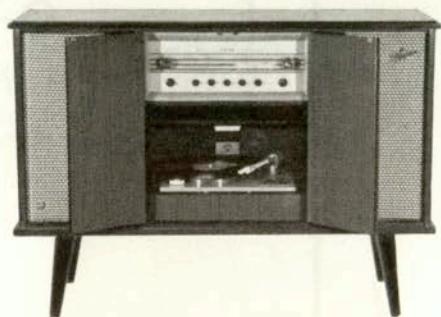


世界の〈音〉を
リードする
ナショナル技術の結晶！



松下電器産業株式会社





SE-3300

現金正価／67,800円

月賦定価／71,200円



SE-5500

現金正価／62,800円

月賦定価／66,000円

ナショナル
スーパー・フォニック
ステレオ



O-SHIBATA
柴田音吉洋服店
 金 神戸・元町通4丁目 神戸 4-0693
 大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

